

中間支援の機能	既存事業名等	現状	対象				課題・改善点	対象				今後求められるもの・ありたい姿	対象				参考となる他団体の 中間支援の事業・内容	すぐに始めること	将来できたらいいこと
			0	1-2	7-8	多数		0	1-2	7-8	多数		0	1-2	7-8	多数			
相談・助言機能	-	-					相談を受ける側との関係性がない 窓口とわからない 体制不足 相談件数が把握できていない					相談の受け手側との継続した関係 安心感 何か情報が得られる					相談票の作成 伴走型支援 つながりやすい（安定した）相談体制の確立	相談窓口のPR 外部アドバイザーによる支援 まずはどこかにつなぐ 他の中間支援団体との連携	気軽に立ち寄れる関係性 相談やマッチングに関する受け手のスキルアップ
マッチング機能	・市民活動団体マッチングリスト発行 ・もりやま市民活動フェスタ	一定の団体の登録数がある					団体同士の関係が希薄 つながる機会がない 新規登録数が少ない 登録した後の返答がない（特典？） 助成金採択団体の登録					他団体との交流の機会 情報更新時における困りごとの調査 行政との協働事業					ニーズに応じたイベント開催 拠点支援メニューで助成金支出（行政との協働事業）	他団体との交流機会の創設 情報更新時の困りごと調査	守山市民活動フェスタの活性化 行政との協働事業
助成金機能	・市民提案型まちづくり支援事業 1)チャレンジ応援事業（3万,10団体） 2)地域貢献事業（15万,10団体） 3)自立事業化前提型事業(50万,1団体) ・ふるさと納税を活用した「豊かな市民活動のまち応援事業」	相談をするきっかけとなる 中間発表(パネル展示)がある フォーラムでの活動発表がある 助成団体が多い					助成金をもらったら関係性が切れる 活動や課題を共有する場がない 活動報告書がない					助成金をきっかけに継続した支援の仕組み 書類提出時における課題等の聞き取り 報告書をつくり他団体の情報を共有する					助成金の出し方の工夫（伴走型支援） 報告書の作成	助成金の出し方の検討 助成団体の活動内容の共有	団体を育てる助成金の出し方 助成後の団体とのつながり
人材育成機能	・市民参加と協働のまちづくりフォーラム ・ファミリーーター養成講座 ・さんさんまちサポセミナー						参加者が少ない 担い手の高齢化（地域）					団体を育てる ともに学ぶ コミュニティビジネス・女性起業家支援					伴走型支援 地域の人材発掘	中間支援者も学ぶ	地域の人材発掘 コミュニティビジネスの支援
拠点機能 (市民交流センター)	・市民交流センター 市民活動スペース（無料） 文化活動スペース（有料）	活動の場がある 作業の場がある					体制が不十分 名称を変更してアピール 貸館業務					キャッチポイントを作る ふらっと立ち寄れる場所					施設管理（指定管理）のノウハウ	拠点施設のPR キャッチポイントをつくる 雑談のできるスペース	指定管理者としての一括運営 気軽にたちよりのつながれる雰囲気づくり
情報収集・発信機能	・守山市民活動手引書もり・まっち発行 ・ホームページ発信	イベント告知「広報もりやま」					広報紙がない ホームページが分かりにくい					広報紙の発行 報道機関（テレビ・ラジオ）の活用 ユーチューブなど新メディアの活用 主催者・参加者双方が使いやすいツール					華津コミュニティ事業団広報「コミュニティくさつ」	もりマッチの紙面充実	報道機関や新メディアの活用 広報紙の作成 独自のホームページ活用
政策提言・調査機能	-	-										潜在的なニーズの掘り起こし					困りごとアンケート調査		行政への政策提言

やりたい人、やりかけた人
には手厚い支援

事業を実施しはじめて見えて
きた課題等を支援

赤字は2回目研究会で新たに出された意見

伴走型支援を行い、団体が継続して活動できるように支援する。
また、市民活動に関心のない層にもはたらきかける。

↑パワーポイントの資料の基礎になっている内容